



## 2024年5月期 決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月5日

上場会社名 Shinwa Wise Holdings株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2437 URL <https://www.shinwa-wise.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 倉田 陽一郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 岡崎 奈美子 TEL 03-5537-8024  
 定時株主総会開催日 2024年8月28日 配当支払開始予定日 —  
 定時株主総会継続会開催予定日 2024年11月27日  
 有価証券報告書提出予定日 2024年11月5日  
 決算補足説明資料作成の有無：有  
 決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年5月期の連結業績（2023年6月1日～2024年5月31日）

#### (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年5月期	2,035	△41.6	△242	—	△222	—	△1,010	—
2023年5月期	3,486	17.5	516	13.0	514	9.5	305	57.3

(注) 包括利益 2024年5月期 △963百万円 (—%) 2023年5月期 307百万円 (44.4%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2024年5月期	△98.84	—	△36.0	△4.8	△11.9
2023年5月期	30.60	28.60	10.2	11.0	14.8

(参考) 持分法投資損益 2024年5月期 ー百万円 2023年5月期 ー百万円

(注) 2024年5月期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、潜在株式が存在するものの、1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年5月期	4,238	2,405	56.6	223.30
2023年5月期	4,969	3,230	64.7	319.49

(参考) 自己資本 2024年5月期 2,397百万円 2023年5月期 3,216百万円

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2024年5月期	△809	△250	143	1,341
2023年5月期	1,180	221	△311	2,273

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2023年5月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2024年5月期	—	7.00	—	0.00	7.00	71	—	2.6
2025年5月期(予想)	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 2024年5月期第2四半期末の配当原資は、全額資本剰余金であります。詳細は、後述の「資本剰余金を配当原資とする配当金の内訳」をご覧ください。

(注) 2025年5月期の配当予想は未定となっております。

### 3. 2025年5月期の連結業績予想（2024年6月1日～2025年5月31日）

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,668	31.1	330	—	330	—	215	—	20.03

※ 注記事項

(1) 期中における連結範囲の重要な変更：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

2024年5月期	10,736,118株	2023年5月期	10,066,518株
2024年5月期	—株	2023年5月期	—株
2024年5月期	10,223,768株	2023年5月期	9,968,737株

(参考) 個別業績の概要

1. 2024年5月期の個別業績（2023年6月1日～2024年5月31日）

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年5月期	625	△12.8	133	—	93	296.9	△795	—
2023年5月期	717	50.4	1	△97.7	23	△66.8	28	—

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2024年5月期	△77.77	—
2023年5月期	2.87	2.69

(注) 2024年5月期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、潜在株式が存在するものの、1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年5月期	2,476	2,219	89.3	206.00
2023年5月期	3,109	2,833	90.6	280.01

(参考) 自己資本 2024年5月期 2,211百万円 2023年5月期 2,818百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、添付資料6ページ「1. 経営成績等の概況（5）今後の見通し」をご覧ください。

・注記事項（1）には、期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）に関する情報を記載しています。

## ○資本剰余金を配当原資とする配当金の内訳

2024年5月期第2四半期の配当のうち、資本剰余金を配当原資とする配当金の内訳は以下のとおりです。

基準日	第2四半期末
1株当たり配当金	7円00銭
配当金総額	71百万円

(注) 純資産減少割合 0.021

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	5
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	5
(4) 2024年5月期における当社の状況及び経営方針 .....	5
(5) 今後の見通し .....	6
(6) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当 .....	6
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	6
3. 連結財務諸表及び主な注記 .....	7
(1) 連結貸借対照表 .....	7
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	9
連結損益計算書 .....	9
連結包括利益計算書 .....	10
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	11
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	13
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	15
(継続企業の前提に関する注記) .....	15
(追加情報) .....	15
(セグメント情報) .....	16
(1株当たり情報) .....	18
(重要な後発事象) .....	18

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、社会経済活動の正常化が維持され、実質GDP成長率はプラス成長を維持し、雇用情勢の改善や春闘での高水準のベースアップの実現、日銀の政策転換による金融環境緩和を背景に今後も緩やかに成長する見通しです。しかしながら、海外経済の減速傾向や人手不足を背景とした供給制約や、米国やEUによる対中関税の引上げによる中国経済の悪化リスク、中東紛争によるスエズ運河迂回による物流コスト上昇など、わが国の景気を下押しするリスクもあり、依然として不透明な状況が続いております。

そのような状況の中、インフレ率は当面高めの伸びが続く傾向にあり資産防衛策としての実物資産への需要は徐々に高まりつつあるとみられ、不動産価格指数や金価格は上昇基調を維持しているようです。しかしながら、アート市場においては価格の上昇をにらみ良品の出し渋り傾向が見られ、オークションへの出品誘致を強化し対策を講じておりますが、以前に比べ低調であると言わざるを得ません。このような厳しい状況の中、新たな実物資産として注目されるワインを扱うワイン・リカーオークションでは出品希望も多く寄せられており、堅調に売り上げを伸ばしております。同様にまた、Bags/Jewellery&Watchesオークションにおいても高額品の出品落札があり、売上を伸ばしております。同時に進行中の大型プライベートセール案件が引き続き当期内に着地できなかったこともあり、アート関連事業において、取扱高は6,380,446千円（前年同期間比32.1%減）、売上高は2,009,993千円（前年同期間比39.0%減）と減収となりました。中でもオークション事業は、前年同期分と比し、20.6%減の1,099,131千円となりました。

## ①アート関連事業

アート関連事業は、取扱高6,380,446千円（前年比32.1%減）、売上高2,009,993千円（前年比39.0%減）、セグメント損失△39,259千円（前年は668,248千円のセグメント利益）となりました。

種別の業績は次のとおりです。

	第35期							
	2024年5月期							
	取扱高 (千円)	前年比 増減 (%)	売上高 (千円)	前年比 増減 (%)	オークション 開催数	オークション 出品数	オークション 落札数	落札率 (%)
近代美術オークション	1,406,970	△26.2	284,622	△19.9	6	312	270	86.5
近代陶芸オークション	267,050	△41.6	49,231	△38.5	4	759	650	85.6
近代美術Part IIオークション	107,375	△49.3	21,365	△54.6	6	480	455	94.8
コンテンポラリーオークション	253,230	△69.1	49,477	△68.2	6	124	115	92.7
ワイン・リカーオークション (注) 1	631,025	35.9	143,330	37.3	4	1,929	1,734	89.9
ジュエリー&ウォッチオークション (注) 1	748,042	38.2	136,632	46.1	4	747	536	71.8
その他オークション (注) 2	92,180	△82.6	18,434	△79.9	3	427	368	86.2
アイアートオークション	1,771,665	△26.4	396,038	△13.5	5	1,345	1,005	74.7
オークション事業合計	5,277,537	△28.1	1,099,131	△20.6	38	6,123	5,133	83.8
プライベートセール	974,139	△49.5	655,975	△63.8				
その他	128,769	△1.9	252,786	162.2				
プライベートセール・ その他事業合計	1,102,909	△46.5	910,861	△52.2				
アート関連事業合計	6,380,446	△32.1	2,009,993	△39.0				

(注) 1. 取扱高の前年比増減率と売上高の前年比増減率の乖離の大きな要因のひとつに、商品売上高の増減があります。商品売上高は、オークション落札価額に対する手数料収入、カタログ収入、年会費等と同様に売上高を構成する要素であり、在庫商品を販売した場合、その販売価格（オークションでの落札の場合には落札価額）を商品売上高として、売上高に計上することとしております。

2. その他オークションは、出品の状況により随時開催しております。

## i) オークション事業

当連結会計年度は、オークションの開催回数は38回（前年度開催回数39回）でした。主な内訳は、近代美術オークション、近代美術Part II オークション及びコンテンポラリーアートオークションを各6回、アイアートオークションを5回、近代陶芸オークション、及びワイン・リカーオークションを各4回、西洋美術オークション、Bags/Jewellery&Watchesオークションを各2回、MANGAオークションを1回で、取扱高は昨年と比し28.1%減となりました。

近代美術オークションは、出品点数19.4%減、落札点数19.9%減でしたが、エスティメイト下限合計額に対する落札価額合計額の比率は、平均で140.3%と高水準で推移し、取扱高は、1,406,970千円となり、昨年と比し26.2%減少しました。

近代陶芸オークションは、出品点数14.1%増、落札点数13.4%増となり、エスティメイト下限合計額に対する落札価額合計額の比率は、平均で102.1%という水準で推移いたしました。取扱高は、267,050千円となり、昨年と比し41.6%減少しています。

近代美術Part II オークションは、出品点数33.2%減、落札点数33.1%減でしたが、エスティメイト下限合計額に対する落札価額合計額の比率は、平均で181.2%と高水準で推移しました。取扱高は、107,375千円となり、昨年と比し49.3%減少しました。

コンテンポラリーアートオークションは、出品点数39.5%減、落札点数38.2%減でしたが、エスティメイト下限合計額に対する落札価額合計額の比率は、平均で101.5%と水準で推移いたしました。取扱高は、253,230千円となり、昨年と比し69.1%減少しました。

一方、ワイン・リカーオークションは昨年と比して開催回数が2回多くあり、出品点数57.6%増、落札点数48.7%増となり、取扱高は631,025千円となり、前年比35.9%増となりました。また、Bags/Jewellery&Watchesオークションでは高額品の出品・落札があり、取扱高は748,042千円と前年比38.2%増となりました。

アイアートオークションは、5回開催し、出品点数1,345点、落札点数1,005点、落札率74.7%という結果になりました。このアイアート株式会社の子会社化により、売上高396,038千円（前年同期比13.5%減）となりました。当

## ii) プライベートセール・その他事業

プライベートセール・その他事業では、美術品のプライベートセールでは大型案件が期ずれとなったため、美術作品のプライベートセール事業は、売上高655,975千円（前年同期比63.8%減）となりました。資産防衛ダイヤモンド販売事業は、売上高524,997千円（前年同期比38.1%減）となりました。

結果として、プライベートセール・その他事業は、前年同期比で取扱高46.5%減、売上高52.2%減となりました。

## ②その他事業

子会社保有の太陽光発電施設による売電事業は継続しており、当連結会計年度のその他事業のセグメント売上高は26,006千円（前年同期比86.6%減）、30,149千円のセグメント損失（前年は7,506千円のセグメント利益）となりました。

以上により、当連結会計年度の業績は、売上高2,035,999千円（前年同期比41.6%減、対前年同期減少額1,450,565千円）、営業損失242,524千円（前年は516,384千円の営業利益）、経常損失222,107千円（前年は514,502千円の経常利益）、親会社株主に帰属する当期純損失1,010,510千円（前年は305,032千円の親会社株主に帰属する当期純利益）となりました。

## (2) 当期の財政状態の概況

当連結会計年度の資産につきましては、総資産は、前年比731,017千円減の4,238,780千円となりました。内訳は流動資産が552,236千円減の3,419,284千円、固定資産は178,780千円減の819,496千円となりました。流動資産の主な内訳と増減は、現金及び預金1,341,996千円（前年比931,126千円の減少）、オークション未収入金476,933千円（前年比215,554千円の増加）、商品1,208,350千円（前年比37,006千円の減少）、その他354,429千円（前年比202,940千円の増加）、売掛金25,399千円（前年比11,350千円の減少）であります。固定資産の主な内訳と増減は、のれん251,798千円（前年比407,994千円の減少）、その他投資資産224,426千円（前年比57,209千円の減少）であります。

負債は1,833,627千円（前年比94,675千円の増加）となりました。内訳は流動負債が1,580,756千円（前年比131,404千円の増加）、固定負債が252,871千円（前年比36,728千円の減少）となりました。流動負債の主な内訳と増減は、オークション未払金767,684千円（前年比300,538千円の増加）、買掛金27,943千円（前年比229,886千円の減少）、短期借入金90,000千円（前年比-千円の減少）であります。固定負債の主な内訳と増減は、長期借入金202,573千円（前年比35,548千円の減少）であります。

純資産は2,405,153千円（前年比825,692千円の減少）となりました。これは、利益剰余金△734,064千円（前年比863,113千円の減少）、資本金165,577千円（前年比1,508,989千円の減少）、資本剰余金2,944,725千円（前年比1,548,952千円の増加）となったことによるものです。この結果、1株当たり純資産額は223.30円、自己資本比率は56.7%となっております。

## (3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動及び投資活動、財務活動によるキャッシュ・フローの減少の結果931,126千円の資金減少となり、当連結会計年度末の現金及び現金同等物は1,341,996千円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

## （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において営業活動の結果減少した資金は、809,783千円（前年は1,180,942千円の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前当期純損失による資金減少926,075千円、オークション未収入金の増加による資金減少215,554千円、オークション未払金の増加による資金増加300,538千円、仕入債務の減少による資金減少229,964千円、法人税等の支払による資金減少282,540千円によるものであります。

## （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において投資活動の結果減少した資金は、250,750千円（前年は221,701千円の獲得）となりました。これは主に有形固定資産取得による資金減少88,926千円、敷金及び保証金の差入による資金減少93,176千円、その他投資活動による資金減少24,538千円によるものであります。

## （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において財務活動の結果獲得した資金は、143,903千円（前年度は311,600千円の減少）となりました。これは主に新株予約権の行使に伴う株式発行による資金増加251,100千円に対し、長期借入金返済による資金減少35,308千円、セールアンドリースバック支出による資金減少2,618千円によるものであります。

## (4) 2024年5月期における当社の状況及び経営方針

当社グループは、公開のオークションという商形態にて美術品や高級品の換金やコレクションを円滑に実現し、美術品を中心とした高額品の価値付けに寄与することを自らのミッションとして事業を展開しています。ポストコロナにおける行動・意識の変化と経済環境のインフレへの転換に合わせ、当社は自らの役割の重要性を認識し、自らのミッションの実現に向けた取り組みを更に強化・加速してまいります。

具体的には、インフレによる資産価値の上昇をベースに高額品の取扱い比率を高める努力を推進します。また、日本の高齢化の中で、相続による様々な高額品の取り扱いの増加を図ります。さらに、国内の市場だけでなく、アジアを中心とした世界からの需要を取り込むため、海外担当チームを本格的に立ち上げます。同時に、国内外からインターネットでオークションにライブで参加できるライブビiddingシステムの利用拡大を推進し、これまでのオークション形態に拘らず、より多くの方にオークションを体験していただき、高額商品を中心としたオークション、高額な宝飾品と時計に特化したオークションを開催するなど、今後も顧客拡大・事業拡大を図ることを経営視点の一つに置いていきます。

なお、Edoverse株式会社より商号変更いたしましたShinwa Digital Arts株式会社では、主要な事業内容をEdoverse事業のコンサルティングから、広くデジタルアート、NFTアートのマネジメントを行うことといたしました。

#### (5) 今後の見通し

インフレ抑制の難航による金融引き締め長期化にともなう、欧米の金融システム不安や物価上昇が続く国内外経済の先行きが極めて不透明な状況にあります。

アート関連事業においては、近代美術オークションをはじめとする各オークションでの高額作品の取り扱いの増加から、市況は徐々に好転する方向にあります。

当社グループは、「日本近代美術再生プロジェクト」と題した、日本の20世紀の近代美術の再評価と価値付けに取り組んでまいりましたが、日本のインフレ環境下において、ようやく日本の近代美術が見直される環境が醸成されてまいりました。同時に、近代美術だけでなく、新たな柱となり得るコンテンポラリーアートの拡大を推進してまいります。また、「資産形成アート投資サロン」を通じて、アートコレクターを呼び込み、オークションに新たな富裕層の誘引を図り、高額品の取り扱いを増加させると同時に、外的要因に影響されにくい新たな事業の開発にも積極的に取り組んでまいります。

これまで、当社では、アートを中心に、宝飾品、時計、バッグ、ワイン・リカー等の様々な高額品アイテムのオークションを開催してまいりましたが、今後、特に宝飾品・時計部門を一つの大きな柱となる部門に育成する方針です。

また、オークション事業から派生した資産防衛ダイヤモンド事業は、各国の金融緩和政策から生じるインフレ懸念から、資産防衛としてのダイヤモンドへの需要が高まっており、引き続き売上の増大を目指します。

その他事業のエネルギー関連については、アート関連事業に経営のリソースを集中させていくため、太陽光発電施設事業を縮小しておりますが、SDGsの観点から、持続可能な再生エネルギーとして自社保有の太陽光発電施設は保持しております。なお、マレーシアでのPKS（ヤシ殻）輸出事業は、全株式を譲渡し、事業より撤退しております。

2025年5月期は、アート関連事業において、各オークションでの高額品の取扱いによるオークション事業と、資産防衛ダイヤモンドやアートのプライベートセール・その他事業の収益拡大を図り、連結収益の拡大を目指します。

#### (6) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社の配当政策の基本的な考え方は、上場以来、配当性向30%を目標にする中で、収益状況に応じた配当を行うことを基準としつつも、安定的な配当の維持ならびに将来の事業展開に備えた内部留保の充実、財務体質の強化等の必要性を総合的に勘案し、決定することとしております。内部留保資金につきましては、中長期的視野に基づいた事業拡大のための投融資等に充当したいと考えております。

当社は、これまで、期末配当の年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としておりましたが、状況に応じた対応を行えるよう、当社は「取締役会の決議により、毎年11月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は、日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。なお、IFRS（国際会計基準）の適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

## 3. 連結財務諸表及び主な注記

## (1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年5月31日)	当連結会計年度 (2024年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,273,123	1,341,996
売掛金	36,749	25,399
オークション未収入金	261,379	476,933
商品	1,245,356	1,208,350
前渡金	3,425	45,157
その他	151,488	354,429
貸倒引当金	△2	△32,983
流動資産合計	3,971,521	3,419,284
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	136,879	73,420
減価償却累計額	△108,243	△6,411
建物及び構築物 (純額)	28,636	67,009
機械装置及び運搬具	68,885	345,985
減価償却累計額	△50,388	△190,830
機械装置及び運搬具 (純額)	18,496	155,154
土地	12,900	36,900
その他	63,845	60,466
減価償却累計額	△38,381	△31,415
その他 (純額)	25,463	29,051
有形固定資産合計	85,496	288,115
無形固定資産		
ソフトウェア	17,864	8,888
のれん	659,793	251,798
その他	—	0
無形固定資産合計	677,657	260,687
投資その他の資産		
投資有価証券	26,973	52,847
関係会社株式	60,600	60,600
長期貸付金	70,604	78,902
繰延税金資産	45,425	—
その他	167,216	224,426
貸倒引当金	△135,696	△146,083
投資その他の資産合計	235,123	270,693
固定資産合計	998,277	819,496
資産合計	4,969,798	4,238,780

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年5月31日)	当連結会計年度 (2024年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	257,830	27,943
オークション未払金	467,146	767,684
短期借入金	90,000	90,000
1年内返済予定の長期借入金	35,308	35,548
未払金	65,077	159,977
未払法人税等	175,331	27,630
前受金	179,348	299,590
賞与引当金	34,795	18,118
過年度決算訂正関連費用引当金	—	117,691
その他	144,514	36,572
流動負債合計	1,449,352	1,580,756
固定負債		
長期借入金	238,121	202,573
退職給付に係る負債	33,239	17,840
その他	18,240	32,458
固定負債合計	289,600	252,871
負債合計	1,738,952	1,833,627
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,674,567	165,577
資本剰余金	1,395,772	2,944,725
利益剰余金	129,048	△734,064
株主資本合計	3,199,388	2,376,238
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	16,744	20,448
その他有価証券評価差額金	6	689
その他の包括利益累計額合計	16,751	21,138
新株予約権	14,704	7,776
純資産合計	3,230,845	2,405,153
負債純資産合計	4,969,798	4,238,780

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書  
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年6月1日 至 2023年5月31日)	当連結会計年度 (自 2023年6月1日 至 2024年5月31日)
売上高	3,486,565	2,035,999
売上原価	1,711,752	972,664
売上総利益	1,774,813	1,063,334
販売費及び一般管理費	1,258,428	1,305,859
営業利益又は営業損失(△)	516,384	△242,524
営業外収益		
受取利息	1,211	906
デリバティブ評価益	1,539	190
為替差益	7,967	11,268
暗号資産評価益	1,072	17,448
匿名組合投資利益	30,415	—
保険解約返戻金	—	14,494
その他	3,705	4,716
営業外収益合計	45,912	49,025
営業外費用		
支払利息	28,533	15,210
支払手数料	16,368	—
貸倒引当金繰入額	1,000	9,940
貸倒損失	—	2,055
その他	1,892	1,402
営業外費用合計	47,794	28,607
経常利益又は経常損失(△)	514,502	△222,107
特別利益		
固定資産売却益	1	—
投資有価証券売却益	37,574	—
退職給付引当金戻入額	—	16,184
特別利益合計	37,575	16,184
特別損失		
訴訟関連損失	5,646	18,000
投資有価証券評価損	—	20,590
貸倒引当金繰入額	21,336	33,430
事務所移転費用	—	17,204
特別修繕費	—	124,181
固定資産除却損	—	23,430
減損損失	—	365,624
過年度決算訂正関連費用引当金繰入額	—	117,691
その他	114	—
特別損失合計	27,098	720,152
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	524,980	△926,075
法人税、住民税及び事業税	218,004	29,315
法人税等調整額	1,943	55,119
法人税等合計	219,947	84,434
当期純利益又は当期純損失(△)	305,032	△1,010,510
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	305,032	△1,010,510

## (連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年6月1日 至 2023年5月31日)	当連結会計年度 (自 2023年6月1日 至 2024年5月31日)
当期純利益又は当期純損失(△)	305,032	△1,010,510
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6,488	683
為替換算調整勘定	8,651	46,796
その他の包括利益合計	2,162	47,479
包括利益	307,195	△963,030
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	307,195	△963,030
非支配株主に係る包括利益	—	—

## (3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2022年6月1日 至 2023年5月31日)

(単位:千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	1,594,264	1,315,470	△175,984	2,733,751
当期変動額				
新株の発行	80,302	80,302	—	160,605
剰余金の配当				
親会社株主に帰属する 当期純利益			305,032	305,032
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	—	—	—	—
当期変動額合計	80,302	80,302	305,032	465,637
当期末残高	1,674,567	1,395,772	129,048	3,199,388

	その他の包括利益累計額			新株予約権	純資産合計
	為替換算調整勘定	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	8,093	6,495	14,588	19,684	2,768,024
当期変動額					
新株の発行	—	—	—	—	160,605
剰余金の配当					
親会社株主に帰属する 当期純利益					305,032
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	8,651	△6,488	2,162	△4,980	△2,817
当期変動額合計	8,651	△6,488	2,162	△4,980	462,820
当期末残高	16,744	6	16,751	14,704	3,230,845

当連結会計年度（自 2023年6月1日 至 2024年5月31日）

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	1,674,567	1,395,772	129,048	3,199,388
当期変動額				
新株の発行	129,567	129,567	—	259,135
剰余金の配当		△71,775		△71,775
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)			△1,010,510	△1,010,510
資本金から剰余金への 振替	△1,638,557	1,491,160	147,397	—
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)				
当期変動額合計	△1,508,989	1,548,952	△863,113	△823,150
当期末残高	165,577	2,944,725	△734,064	2,376,238

	その他の包括利益累計額			新株予約権	純資産合計
	為替換算調整勘定	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	16,744	6	16,751	14,704	3,230,845
当期変動額					
新株の発行					259,135
剰余金の配当					△71,775
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)					△1,010,510
資本金から剰余金への 振替					—
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	3,703	683	4,386	△6,928	△2,542
当期変動額合計	3,703	683	4,386	△6,928	△825,692
当期末残高	20,448	689	21,138	7,776	2,405,153

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年6月1日 至 2023年5月31日)	当連結会計年度 (自 2023年6月1日 至 2024年5月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	524,980	△926,075
減価償却費	24,560	20,088
のれん償却額	64,370	64,370
貸倒引当金の増減額(△は減少)	22,336	43,368
賞与引当金の増減額(△は減少)	△3,476	△16,677
過年度決算訂正関連費用引当金増減額	—	117,691
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△36,500	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	2,906	△15,399
受取利息及び受取配当金	△1,211	△906
支払利息	28,533	15,210
デリバティブ評価損益(△は益)	△1,539	△190
減損損失	—	365,624
貸倒損失	—	2,055
固定資産除却損	0	23,430
固定資産売却益	△1	—
投資有価証券売却損益(△は益)	△37,574	—
投資有価証券評価損益(△は益)	—	20,590
補修関連工事費用	—	124,181
移転費用	—	17,204
訴訟関連損失	5,646	—
匿名組合投資損益(△は益)	△30,415	—
売上債権の増減額(△は増加)	253,471	9,294
オークション未収入金の増減額(△は増加)	△217,259	△215,554
未収入金の増減額(△は増加)	27,086	27,412
棚卸資産の増減額(△は増加)	9,208	△130,757
前渡金の増減額(△は増加)	6,563	△41,732
仕入債務の増減額(△は減少)	237,010	△229,964
オークション未払金の増減額(△は減少)	382,401	300,538
前受金の増減額(△は減少)	95,087	120,041
その他	86,154	△104,054
小計	1,442,340	△410,211
利息及び配当金の受取額	1,211	906
利息の支払額	△28,533	△15,210
法人税等の支払額	△210,445	△282,540
法人税等の還付額	31,941	1,115
移転費用の支払額	—	△17,204
補修関連工事支払額	—	△86,639
訴訟関連損失の支払額	△55,572	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,180,942	△809,783
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△4,908	△88,926
無形固定資産の取得による支出	—	△22,000
定期預金の預入による支出	△100,000	—
定期預金の払戻による収入	200,000	—
投資有価証券の取得による支出	△20,590	△22,109
投資有価証券の売却による収入	137,575	—
敷金及び保証金の差入による支出	△16	△93,176
匿名組合出資金の払戻による収入	30,415	—
その他	△20,774	△24,538
投資活動によるキャッシュ・フロー	221,701	△250,750

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年6月1日 至 2023年5月31日)	当連結会計年度 (自 2023年6月1日 至 2024年5月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△428,500	—
長期借入金の返済による支出	△31,228	△35,308
社債の償還による支出	△5,000	—
株式の発行による収入	155,625	251,100
配当金の支払額	—	△70,376
新株予約権の発行による収入	—	1,106
セール・アンド・リースバックによる支出	△2,497	△2,618
財務活動によるキャッシュ・フロー	△311,600	143,903
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3,506	△14,495
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,087,537	△931,126
現金及び現金同等物の期首残高	1,185,586	2,273,123
現金及び現金同等物の期末残高	2,273,123	1,341,996

## (5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

## (追加情報)

(不適切な会計処理)

当社の連結子会社であるShinwa Prive株式会社等において、2019年5月期から2024年5月期までのプライベートセールに関する不適切な会計処理により、実態と相違がある売上計上が行われている疑いがあることが判明いたしました。これを受け、2024年7月4日開催の取締役会において、プライベートセールに関する会計処理において疑義が発生したため、専門的かつ客観的な調査が必要であるとの判断に至り、業績への影響の有無、社内体制の不備の有無や原因の究明及び再発防止策の策定等を目的として、外部専門家で構成される第三者委員会の設置につきまして決議いたしました。

当社は、2024年9月6日、第三者委員会から調査報告書を受領し、連結子会社であるShinwa Prive株式会社等が行った絵画等のアート作品のプライベートセール（以下、「アート売買取引」という。）の中に、実質的には金融取引等と処理すべきもの及び売買契約締結時に売上計上されていたが引渡時に売上計上されるべきであったものが含まれていたとの評価を受けております。

当社は、報告内容の検討及びこれを受けた自主調査の結果、金融取引等及び売上計上時期に関する不適切な会計処理が行われていたことを確認しました。このため、当社は影響のある過年度の決算を訂正することが適切であると判断し、2019年5月期から2023年5月期の各有価証券報告書、2020年5月期第1四半期から2024年5月期第3四半期までの各四半期報告書について、訂正報告書を提出することといたしました。

なお、売上計上時期に関する会計処理の調査に関して、収益の認識時点の確認のために商品の引渡時点が確認できる外部証拠である受領確認書を取引先から入手し、当該証拠の確認が出来ない場合には、入金証憑、引渡時点を特定する出張記録、システムの出庫記録等の資料に基づき、売上の計上時期の訂正を行っております。しかしながら、当連結会計年度のプライベートセールにおける売上取引のうち売上高16,597千円（売上総利益7,377千円）につきましては、引渡時点を特定することができなかつたため、入金日又は契約日に基づき計上しております。

上記訂正による、各連結会計年度における財務数値への影響は、下記のとおりです。

(単位：千円)

	第30期 2019年5月期	第31期 2020年5月期	第32期 2021年5月期	第33期 2022年5月期	第34期 2023年5月期
売上高	△3,703	2,733	△529,244	338,613	△160,650
経常利益	△9,115	8,590	△181,064	47,617	△62,080
親会社株主に 帰属する当期 純利益	△6,968	△119,514	△178,569	49,530	△68,689
純資産額	△6,968	△126,483	△305,053	△255,522	△324,212
総資産額	△6,968	△124,978	△205,059	212,942	△84,934

## (セグメント情報)

## 1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象になっているものであります。

これにより、オークションの企画、運営を行うオークション事業と、資産防衛ダイヤモンド販売、NFTアート販売を含むプライベートセール・その他事業を「アート関連事業」とし、売電事業やPKS事業等を「その他事業」としております。

したがって、当社グループは製品・サービス別のセグメントから構成されており、「アート関連事業」及び「その他事業」の2つを報告セグメントとしております。

## 2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表を作成するために採用される会計処理の原則及び手続に準拠した方法と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

## 3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 2022年6月1日 至 2023年5月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額	連結財務諸表 計上額
	アート関連事業	その他事業			
売上高					
外部顧客への売上高	3,292,490	194,075	3,486,565	—	3,486,565
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,292,490	194,075	3,486,565	—	3,486,565
セグメント損失(△)	668,248	7,506	675,755	△159,370	516,384
セグメント資産	3,818,345	569,208	4,387,553	582,244	4,969,798
その他の項目					
減価償却費	22,497	—	22,497	2,062	24,560
有形固定資産及び無形固定資産 の増加額	4,054	—	4,054	854	4,908

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△159,370千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△159,370千円が含まれております。なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- (2) セグメント資産の調整額582,244千円には、各報告セグメントに配分していない全社資産が含まれております。なお、全社資産は、主に提出会社における現金、投資有価証券及び管理部門に係る資産等であります。
- (3) 減価償却費の調整額2,062千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社資産の償却費等であります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

セグメント利益の合計額は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当連結会計年度（自 2023年6月1日 至 2024年5月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額	連結財務諸表 計上額
	アート関連事業	その他事業			
売上高					
外部顧客への売上高	2,009,993	26,006	2,035,999	-	2,035,999
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	2,009,993	26,006	2,035,999	-	2,035,999
セグメント損失(△)	△39,259	△30,149	△69,408	△173,115	△242,524
セグメント資産	3,624,551	408,162	4,032,713	206,067	4,238,780
その他の項目					
減価償却費	25,694	3,500	29,195	△9,107	20,088
有形固定資産及び無形固定資 産の増加額	49,306	-	49,306	61,620	110,926

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△173,115千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△173,115千円が含まれております。なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
  - (2) セグメント資産の調整額206,067千円には、各報告セグメントに配分していない全社資産が含まれております。なお、全社資産は、主に提出会社における現金、投資有価証券及び管理部門に係る資産等であります。
  - (3) 減価償却費の調整額△9,107千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社資産の償却費等であります。
2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)
- セグメント利益の合計額は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2022年6月1日 至 2023年5月31日)	当連結会計年度 (自 2023年6月1日 至 2024年5月31日)
1株当たり純資産額	319.49円	223.30円
1株当たり当期純利益 又は1株当たり当期純損失(△)	30.60円	△98.84円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	28.60円	－円

(注) 1. 当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年5月31日)	当連結会計年度 (2024年5月31日)
純資産の部の合計額(千円)	3,230,845	2,405,153
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	14,704	7,776
(うち新株予約権)(千円)	(14,704)	(7,776)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	3,216,140	2,397,376
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	10,066,518	10,736,118

3. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失並びに潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年6月1日 至 2023年5月31日)	当連結会計年度 (自 2023年6月1日 至 2024年5月31日)
1株当たり当期純利益 又は1株当たり当期純損失(△)		
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)(千円)	305,032	△1,010,510
普通株主に帰属しない金額(千円)	－	
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)(千円)	305,032	△1,010,510
期中平均株式数(株)	9,968,737	10,223,768
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額	－	－
普通株式増加数(株)	696,678	382,867
(うち新株予約権)(株)	(696,678)	(382,867)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	－	第18回新株予約権(新株予約権の数5,558個、普通株式555,800株) 第19回新株予約権(新株予約権の数11,065個、普通株式1,106,500株)

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。